

今後取組むべき重点ポイント

【資料2】

基本目標1 スポーツ機会の創出・スポーツによる健康増進

- スポーツに気軽に取り組む機会の充実
- 働く世代、親と子が楽しむスポーツの充実

【要因】

- ・スポーツの実施率が国の目指す目標値と大きく乖離している。
(現状) 50.5% → (目標) 70.0%
- ・男性は30歳代～50歳代、女性は30歳代のスポーツ実施率が低い。

基本目標2 スポーツによるまちづくり

- スポーツを通じたまちのにぎわいとコミュニティづくり

【要因】

- ・集客力のあるスポーツを、まちのにぎわい・地域経済の活性化、コミュニティづくりに活かされている例が少ない。

基本目標3 スポーツを通じた共生社会の実現

- インクルーシブスポーツの推進

【要因】

- ・インクルーシブスポーツ・障がい者スポーツの普及啓発がほとんどされていない。
- ・スポーツを活用し、人権や多様性を認め合う意識の高揚を図るなど、誰もが活躍できる共生社会の実現に向けた取り組みが少ない。

基本目標 4 利用しやすい施設環境の整備

- スポーツ施設の整備・利便性の向上
- スポーツ人口を増加させる既存施設の有効活用

【要因】

- ・他の自治体と比較し、スポーツ施設の整備・改修が進んでいないとの声が多い。
- ・新たに施設を整備する財源がない中、スポーツ環境の整備を進めるためには、既存の公共施設を有効活用する必要がある。

基本目標 5 スポーツ好きなあまっ子を育む

- スポーツとの出会いの場の充実
- 学校との連携によるスポーツ活動の支援

【要因】

- ・他の自治体と比較し、運動・スポーツ好きな子どもの割合が低い。
※特に中学生女子の割合が低い。